

戊辰役越後府民政盡瘁者

故 安井 顯比

加賀國小松ノ人ナリ加賀藩主前田利常ニ任テ  
 是檢地改作軍艦等ノ奉行ニ任セラレ尋テ壯猶館  
 頭取役トナリ陸軍ノ事ヲ掌理ス夙ニ勤王ノ大義  
 ヲ唱ヘ同志ヲ糾合シテ藩ノ方嚮ヲ定ムルニ勉メ  
 又教育ヲ興シ軍備ヲ整ヘ開墾殖民窮民救恤等經世  
 濟時ノ策ヲ樹ツルコト屢次嘗テ京都ニ在ルノ日  
 木戸孝允ノ知遇ヲ得其ノ卓見ヲ稱セラハ明治元  
 年蝦夷地開拓並耶蘇教信徒處置方ニ關シテ總裁  
 職三條實美ニ建策スル所アリ官軍歲太政官ニ徵  
 サレテ軍防局會計頭取役トナリ尋テ越後府權判  
 事ニ任セラハ當時官軍越後ニ進ミテ陣陣ノ為ニ  
 軍資ニ窮シ高田藩等軍費多端ニシテ到底徵發ス  
 ル能ハス殊ニ民政ニ要スルノ費用ヲ徵集スルニ  
 由ナキニ際シテハ顯比高田ニ在リテ意見書ヲ辨  
 事ニ提出シ尋テ越後ノ治制ヲ改革シテ北越平靜  
 ノ基ヲ立テムコトヲ請ヘルマリ更ニ舊藩ノ執政  
 本多氏ニ建言シテ加賀藩史ノ編集ヲ請ヒシニ後  
 果シテ其ノ事アリ二年五月願ニ依テ官ヲ免セラ

レ尋テ金澤藩權大參事ニ任セラレ以テ三年十月  
ニ至ル著ハス所財政論國教論畫論等アリ意ヲ民  
政並國策ニ用ハリ二十六年九月病ヲ以テ歿ス享  
年六十有四

正五位

右故安井顯比ハ舊加賀藩、諸奉行ニ歷任シ明治  
元年蝦夷地開拓並耶蘇教信徒處置ニ關シテ三條  
實美ニ建策スル所アリ太政官ニ召サレテ軍防局  
ニ出仕シ尋テ越後府權判事ニ任シ越後滞陣ノ言  
軍軍資ニ窮スルニ當テ意見書ヲ辨事ニ提出シ越  
後治制ノ改革ヲ請ヒテ皆其ノ實績ヲ收メ一ニ民  
政ノ治務ヲ以テ任トセリ二年官ヲ罷メテ家居シ  
著作スル所アリ以テ世ヲ竟ヘタリ加賀藩士ノ間  
ニ重望アリシモノニ係ル  
ヲ贈ラレ可然

如

右故安井顯比ハ舊加賀藩、諸奉行ニ歷任シ明治  
 元年蝦夷地開拓迄耶蘇教信徒處置ニ關シテ三條  
 實美ニ建策スル所アリ太政官ニ召サレテ軍防局  
 ニ出仕シ尋テ越後府權判事ニ任シ越後滞陣ノ言  
 軍軍資ニ窮スルニ當テ意見書ヲ辦事ニ提出シ越  
 後治制ノ改革ヲ請ヒテ皆其ノ實績ヲ收メ一ニ民  
 政ノ治務ヲ以テ任トセリ二年官ヲ罷メテ家居シ  
 著作スル所アリ以テ世ヲ竟ヘタリ加賀藩士ノ間  
 ニ重望アリシモノニ係ル  
 ヲ贈ラレ可然

めくれず

大正五ノ八

安井顯比

一氏名 安井氏字ハ士順幼名ハ源太郎後チ羊右衛門ト  
改メ更ニ和介又條平ト稱シ後チ通稱ヲ廢メテ諱ノ顯  
比ヲ以テ之ニ代フ

二生年月日 天保元年六月十一日 加賀小松ニ生ル

安井顯比

大正四年ニ不任職ノ理由  
加賀藩陸海ノ軍奉行トシテ印着アリ成  
辰ノ夜ニ從征シ尋ニ蝦夷地同根等ノ立見ヲ上  
申シ北越討時ノ民政ニ執掌ス國家功勞者勤  
王功勞者トシテ認めハキニ事蹟再查ヲ要ス他日  
ノ御註評ニ俟テ可也

以及筆法ヲ善クス中  
山利常ニ仕ヘテ祐筆  
顯比夙ニ學ヲ好ミ

地奉行ヲ命セラレ加越能三州地理水道ノ事務ヲ管掌

石川縣金澤市役所

シ安政元年改作奉行ニ轉シ三州租稅ノ事務ヲ掌理シ  
同五年其職ヲ免セラレ文久三年壯猶館横目兼軍艦横  
目ヲ命セラレ洋法海陸軍練武ノ勤惰等ヲ監シ次テ物  
頭並軍艦棟取トナリ慶應元年軍艦奉行ニ加ハリ軍艦  
棟取ヲ兼ネ次テ壯猶館頭取役ニ任セラレ陸軍ノ事務  
ヲ掌務シ軍艦方タルコト故ノ如シ同二年物頭並先手  
大筒頭ヲ以テ大砲隊頭ヲ兼ネ又壯猶館軍艦奉行ニ加  
ハル是年作事方ニ轉シ更ニ物頭並歸役作事方ヲ命セ  
ラル明治元年砲隊物頭作事方ヲ兼ヌ同年二月太政官  
ノ徵ニ應シ軍防局會計頭取役ヲ命セラレ同四月加賀  
藩ヨリノ徵士ニ薦メラレ内國權判事新瀉裁判所在勤  
ヲ命セラレ尚會津征討中軍防局御用ノ兼勤ヲ命セラ

安井顯比

一氏名 安井氏字ハ士順幼名ハ源太郎後チ羊右衛門ト改メ更ニ和介又條平ト稱シ後チ通稱ヲ廢メテ諱ノ顯比ヲ以テ之ニ代フ

二生年月日 天保元年六月十二日加賀小松ニ生ル

三勲位 無シ

四事蹟

家世、近江ニ居ル源兵衛ニ至リ和歌及筆法ヲ善クス中院通村ニ推薦セラレ加賀藩主前田利常ニ仕ヘテ祐筆ト爲リ子孫相襲キテ前田氏ニ仕フ顯比夙ニ學ヲ好ミ氣節ヲ尚フ天保九年七月家督ヲ相續シ嘉永六年定檢地奉行ヲ命セラレ加越能三州地理水道ノ事務ヲ管掌

石川縣金澤市役所

シ安政元年改作奉行ニ轉シ三州租稅ノ事務ヲ掌理シ同五年其職ヲ免セラレ文久三年壯猶館横目兼軍艦横目ヲ命セラレ洋法海陸軍練武ノ勤惰等ヲ監シ次テ物頭並軍艦棟取トナリ慶應元年軍艦奉行ニ加ハリ軍艦棟取ヲ兼ネ次テ壯猶館頭取役ニ任セラレ陸軍ノ事務ヲ掌務シ軍艦方タルコト故、如シ同二年物頭並先手大筒頭ヲ以テ大砲隊頭ヲ兼ネ又壯猶館軍艦奉行ニ加ハル是年作事方ニ轉シ更ニ物頭並歸役作事方ヲ命セラル明治元年砲隊物頭作事方ヲ兼ヌ同年二月太政官ノ徵ニ應シ軍防局會計頭取役ヲ命セラレ同四月加賀藩ヨリ、徵士ニ薦メラレ内國權判事新潟裁判所在勤ヲ命セラレ尚會津征討中軍防局御用ノ兼勤ヲ命セラ

レテ越後ノ高田總督府本營ニ在リテ其職ヲ奉ス翌五  
月更ニ越後府權判事ヲ命セラレ七月越後府判事ヲ命  
セラレ從五位下ニ叙セラレ同二年五月願ニ依リ徵士  
是迄ノ職務ヲ免セラレ位階ヲ返上ス是年八月金澤藩  
權大參事ニ任セラレ三年正月藩主ノ命ニ仍テ東京ニ  
赴キ四月公儀人ヲ命セラレ東京ニ在リ十月職ヲ免セ  
ラレ金澤藩乃チ其在職中恪勤ノ功ヲ嘉シテ金參百兩  
ヲ給セラル其辭ニ曰ク御一新以來國事多端之折格別  
令盡力神妙之至ニ候ト同四年正月前田氏ノ家扶ト爲  
リ家令ノ心得ヲ以テ世子利嗣ノ傳ト爲リ保護心ヲ竭  
ス廢藩ノ後金澤ニ歸休シテ老ヲ養ヒ此ヨリ復々官ニ  
就カス常ニ永山平太等ト相往來シ屢々民業ニ從事シ

石川縣金澤市役所

一意公益ニ竭シ千思民福ヲ圖リ晚年東京ニ移住シ侯  
爵前田家ニ入りテ藩史編修ノ事ニ從ヒ又各藩共同シ  
テ史談會ヲ起スニ及ヒ舊加賀藩ヲ代表シテ其員ニ加  
ハレリ

顯比藩ニ在リ内外ノ形勢ヲ見テ夙ニ勤王ノ大義ヲ唱  
ヘ同志ヲ翕合シテ藩ノ方嚮ヲ定ムルニ努メ又教育ヲ  
興シ軍備ヲ整ヘ墾地殖民貨幣鑄造窮民救恤等經世濟  
時ノ策ヲ建ツルコト屢次其論スル所鑿々トシテ肯綮  
ニ中ル嘗テ京都ニ在ルノ日木戸孝允ノ知遇ヲ得孝允  
其卓絶ノ見高邁ノ識ヲ稱ス而テ顯比建言ノ最モ多カ  
リシハ實ニ明治元年ニ在リ是年三月太政官代ニ於テ  
三條總裁職岩倉副總裁職ハ在職ノ公卿諸侯暨ヒ諸藩

徴士ヲ召集シ初メテ會議ヲ開キ蝦夷地開拓並ニ耶蘇  
教信徒處置方ニ關シテ議スル所アリ顯比會々軍防局  
ニ在リテ意見書一篇ヲ三條總裁職ニ提出セリ翌五月  
是ヨリ先官軍越後高田ニ進ミ金穀及ヒ砲銃彈藥等饒  
カニ給セス鯨波ノ戰始マリテヨリ數日霖雨アリ越後  
川水大ニ漲リ殊ニ長岡藩等官軍ニ抗敵スルニ至リ曠  
日彌久戡定ノ期豫メ知ル能ハス從ヒテ費貲ヲレス高  
田藩等軍費多端ニシテ到底軍資ヲ徵發スル能ハス殊  
ニ民政ニ要スル費用ヲ徵集スルニ由ナシ顯比時ニ高  
田總督府ニ在勤シ此狀ヲ默視スルニ忍ヒス意見書ヲ  
辦事ニ提出シ儻シ言容レラレスンハ職ヲ解カニコト  
ヲ乞フ其意甚ク愷切ナリ既ニシテ諸藩ノ越後へ出兵

石川縣金澤市役所

スルモ、多シト雖モ政府資給ノ道ヲ絶テ民政ニ從事  
スル能ハス加フルニ兵士其供給ノ缺乏ヲ訴フル者愈  
衆シ顯比因リテ意見書ヲ辦事ニ提出セリ同七月又意  
見書ヲ辦事ニ提出シ越後國ヲ二分シ知縣事判縣事知  
府事判府事ヲ置キ且ツ府縣ニ兵備ヲ設ケ以テ北越平  
靜ノ基ヲ立テンコトヲ請フ顯比心ヲ國家ノ經綸ニ用  
フルコト大概此類ナリ是年八月又藩ノ執政本多氏ニ  
建言シテ加賀藩史ノ編集ヲ請フ後チ果シテ侯爵前田  
家ニ加賀藩史編輯ノ事マリ顯比又恒ニ西郷隆盛カ志  
操ノ潔功績ノ赫タルヲ以テ一朝私忿ニ依リテ誅ニ伏  
シタルヲ悲ムコト甚切ナリ仍テ明治二十年六月親ラ  
一書ヲ裁シテ 有栖川熾仁親王ニ上ツリ其前罪ヲ宥



サレンコトヲ請フ慶應元年正月時勢論ヲ作ル其意舊  
幕府威ヲ積ムコト已ニ二百數十年而テ三百ノ諸侯之  
カ藩屏トナリ兵仗備ハリ萬糧時ツ然レトモ幕府ノ七  
フル當ニ兩三年ヲ出テサルヘシ大勢ノ歸スル所炳ト  
シテ火ヲ睹ルカ如シトイフニ在リ人皆其先見ノ明ニ  
服セリ是ヨリ先明治九年十月參議木戸孝允ニ一書ヲ  
呈ス其意外患憂フルニ足ラス内憂深ク懼ルヘシ西郷  
隆盛兵勇ヲ私學校ニ聚ム而テ閣下之ヲ輕視スト聞ク  
恐クハ大患踵ヲ旋サスシテ至ラン隆盛ノ權數測ルヘ  
カラス此レ内顧ノ最モ憂フヘキモノ豈朝鮮ノ比ナラ  
ンヤト云フニ在リ但此書ヲ木戸參議ニ呈シタルヤ否  
未タ明カナラサレトモ其國事ヲ憂フルノ深キ以テ見

石川縣金澤市役所

ルヘシ此他作ル所財政論アリ國教論アリ畫論アリ一  
トシテ謬誤ノ議透徹ノ見ニ非サル莫シ又嘗テ前田三  
代言行實記ヲ著シ稿半ニ迄ヒテ未タ成ラス

五、死七年月日 明治二十六年九月七日東京ニテ病死享  
年六十四

六、遺族狀態 顯比嗣ナシ遺妻政ハ季女王枝ノ嫁セル東  
京市外野方町下沼袋押見氏ノ家ニ寄食ス

七、前各項ニ關スル調査ノ出處

山田新川撰「安井顯比墓誌」岡田良顯編輯「青軒遺稿」附  
録「安井青軒先生傳」及ヒ意見等ニ據ル、意見書五通別紙  
添付ノ如シ

蝦夷地開拓之義は公卿諸侯を始め俊彦英才衆議を被  
爲盡御廟算已に決定の百事將に擧らんとするに當て  
不顧僭越献言仕候ハ甚以奉恐入候得共元來彼地往昔  
ハ府を久春古丹に建て耳查甲も 皇國の管内に有之  
候處極寒不毛の地ハ付撫恤方等閑に相成いつとなく  
耳查甲は我國の爲に據られ千島は申す不及クナシリ  
エトロフ造も駭々犯來候ハ付嘉永癸丑の歲幕府の吏  
我國の使臣布恬廷を疆界の條約取結蔚布島以南は  
皇國に屬し可申盟約の處方今形勢クナシリエトロフ  
は申不及東蝦夷の地をも數十里蠶食するの勢に至る  
由畢竟舊幕の吏規模狭少るして處置不得其宜故なり

石川縣金澤市役所

就ては即今急務先づ督府を箱館に建て内地の通路を  
便にし外舶の入港を安くするを要とす公卿方の内其  
器に當る者を御抜擢被爲在至急に鎮撫使被命藩士及  
ハ草莽陪隸を問はず其才幹ある者を御撰擢爲參謀被  
差副其山脈地勢を熟察し五六ヶ國にも分割し佳名を  
撰して之れに附し號して鎮東何ヶ國と爲し 蝦夷開拓  
ハ志し有る者をして盡く之れに移らしめ持場を定め  
開墾に取懸り成功に従ひ領地を與へ士人を碁布し耕  
夫を募り漁丁を招き内地の男女をして永く此に住せ  
しむるの策を畫し彼の土蕃アイノの如き地方開闢に  
隨ひ之れを未開の地へ移し海山共に開拓すへき順序  
に相運候ハ、歲月を不出して成功に至り可申或は洋

學郷校を箱館に設立し洋學生徒をして此に麁集せしめ或は諸國に棄兒院を造り兒の成立を待ち箱館の洋學校へ送り成器に従ふて貴賤を別ち各所に散布するの法も可らん歟是等ハ高明の決議によるへし蝦夷地全國總督府の管轄とし其地を區畫し諸侯に分配し大小廣狹其蓄力に従ひ之れを開拓せしむ彼の運上屋の如きハ之れを廢し更ニ官吏を置き之れを處理せしめ其地の所得利益は盡く彼地の開墾撫恤并に開拓の費に充て毫も内地の費用を供せず如此すれハ則ち必ず膏腴の地とならん且幕府の時に當り彼地の義に就ては水戸贈大納言源齊昭卿年來若心度々幕府へ申立ち此候事件も有之候得共採用に不相成必定遺憾の事に

石川縣金澤市役所

可有之今其遺策を採り武田金次郎等百餘人ハ水戸臣籍の者に候間此度鎮撫使東下の節は爲護衛被地へ被遣是迄幕府より開墾致しかけ候地所の内を以右の者共領地に被下官吏と同して盡力勉勵致させ候ハハ天恩の殊渥に感激し且齊昭卿の遺志を繼くに相當り開拓事業奮ふて成功に至り可申又四方より被召寄る者も開拓其成功により領地を賜ひ都而治法内地と同様何れにも士人の領地と不相成てハ失ふ所多く得る所少くして終に開拓の期有之間敷と奉存候備て右御仕向に相成候得ハ箱館を總督府に被取建舊來の運上屋は官署となし官吏を置き商人を征し萬事督府の管轄とし東はエトロフクナシリ迄北はウヤシラヌレ

より五十度以北の地迄處々要區に小府を置き兵備を  
設け聲援相通し幾人に國威を示し駸々として彼か疆  
域迄も相逼候様有之度勿論五六ヶ國にも分割いふし  
佳名を製し鎮東何ヶ國と相唱候様相成候得者鎮西の  
九州と抗衡し齊昭卿所論の如く中土の兩翼となり千  
載不朽の御盛舉と奉存候其上當今復古維新の政に遭  
際し要荒遐陬の地に住し候蠢愚春爾の小民迄も御新  
政の御仁惠を奉戴仕候様有御座度彼地已夏月の氣候  
のみ粗ホ中土と同じく候得共多寒少暖の地ニ付時月  
相後北候而者何事も今年の御設施に相成兼可申候間  
急速御人撰御決定有之本月中是非とも御出帆有御座  
度奉存候誠惶誠恐頓首謹言

石川縣金澤市役所

戊辰三月

安井知介

總裁職

三條實美殿閣下

當春北陸道鎮撫御總督御進發被爲在越後國高田御留  
中同國諸侯一同勤 王之意を表し候得共阪邑僻郷に  
至ては御鎮撫之御盛意未貫徹不仕候哉關東御下向の  
後浮浪の兇徒所々に嘯集し 王化を妨げ下民を慍  
候に付御再進被爲在候處賊勢已に張大猖獗恩徳を以  
懷服し難く兵威を以懲罰いふし候外無之場合ニ立至  
り官軍諸藩憤發激勵彈力苦戰屢に賊を破り候得共未降  
伏歸順不仕折柄長岡藩前意を翻し叛を謀り候哉又は  
賊徒の爲に制せられ候哉彼是聲氣相通し既に官軍に  
抗し自余の諸藩道路梗塞事情不通候よ付日を尅し御  
鎮定に相成候義無覺束且關東奥羽既に解兵に相成候

石川縣金澤市役所

上獨北陸のみ兵力を窮め候は長策とも 不被存聊御武  
威に相顯候とも出兵以來士卒原野に暴露し命を彈丸  
の下に墮するもの頗多し此輩固志誠勇武 王事に勤  
め奮て身を顧すといへとも父を喪し子を哭するの家  
啼泣の聲絶えず假令官軍破竹の勢に乗すと雖猶強弩  
之末魯縞を貫く能はざるを恐る况兵結不解荏苒日久  
數千の兵供給の費無算一旦金穀空乏を告げ彈藥継か  
ざる時は兵力遂に摧け固守持重する事能はず土崩瓦  
解不戦自潰の勢に立至り候は必然之理にて實に寒心  
仕候是等の御廟算相立不申而者萬全之御鴻業も如何  
と乍恐懸念奉存候夫れ戦争已速なるに貴ふ徒に時日  
を費し成功を見ゆ事遲きは賤民徭役に奔走し農務

を廢棄し困憊心の極怨望を懷候に至り御撫育之御盛意も貫徹不被爲在畢竟萬民塗炭に苦候のみよて悦服仕候もの無御座加之戦争を経るの地賤民家を焼かれ産を亡い飢餓に通じ或て罪なくして非命に斃る者少からず哭泣の聲道路に盈つ實に可哀情態に御座候如此ニ而者政御一新の始萬民の疾苦を被爲救候御深旨に及粗語可仕候ニ付何分御撫育之道相立四民各其所を得深仁厚澤に浴し鼓腹歡樂仕候様企望仕候就而者方今の急務ニ窮民の御撫恤第一と奉存候臣和介不肖の身を以内國權判事の職を汚し新瀉裁判所在勤被仰出候ニ付急速民政に従事可仕候得共新瀉裁判所は有名無實にて彼地は猶賊徒之巢窟とて督府高田に御

石川縣金澤市役所

滞留被爲在建府布政未時日を期す可からず救民懷象之術金穀餘有るに非されば施す事能はれ假令僅の金穀を以目前の窮を救い候共公平手無私遍く下民を感服せしむる事を得ず却而怨望を生るに至る且金穀偏闕すへからんと雖苟凶年飢歲に非されば金以穀に易へし故に金餘あれば穀の乏す我憂へす今軍事多端夫下の疲弊甚し幸に凶荒なきを以穀の乏す我憂へす乏す我憂ふる所のみは獨金のみ是を以金乏す時も凡百の事一として成功を得る者なし焉能下民をして德澤に浴し各其所を得せしむるけん哉苟金穀御資給之通無之時も臣和介職事に堪る事能るに憂慮恐縮身を措に處なく 皇化萬分の一を裨益する能るに其上

鬱病差起、困卧罷在甚以奉恐入候得共情實御憐察初  
爲下内國權判事新瀉裁判所、在勤等被差免別々其器に  
當る者、御撰擢被成下候様奉懇願候誠惶誠恐頓首謹  
言

戊辰五月

安井和介

辦事御中

石川縣金澤市役所

王政復古百事御一新之御盛業被爲立候に付而も舊來の門閥を論せし陪隸草茅の者に至迄御登庸被爲在或も職を命し或は事を議せしめ給ふを實に千歳の一遇よしして萬民塗炭之苦を被爲救德澤遠邇に偏く匹夫匹婦も其所に得さる者ふく鼓腹歡樂せし免給んとの厚に 睿慮を體認し各粉骨碎身其分を盡し 皇化萬分の一に裨益せさる可からさるは勿論に御座候不肖之臣庸劣短才を以過而被拔擢内國權判事新瀉裁判所在勤被 仰出不堪憂慮危懼之至候方今越之形勢浮浪の兇徒跋扈強梁 王師に抗し候よと戰爭之衢と相成り賤民兵燹に罹り家を焼かれ産を失ひ 飢餓に逼り加之

石川縣金澤市役所

徭役に奔走し農務を廢棄し或は彈丸の下非命に斃は者不少元來北陸諸藩は當春御總督府御下向之節各勤王之意を表し候處此度長岡藩賊徒に與し候儀誠に意外に出候因之官軍憤勵激戰既に城を拔候得共殘黨未平且村松等の藩道路梗塞事情未可知兵結不解官軍供給之費莫大にして大都月に五万餘金を費し候由に御座候猶諸藩に出兵被 仰付候由反に承申候に候得も兵の増に従ひ費用愈相増申候一旦金穀不繼曠日彌久する事能はざる時も土崩瓦解之場合に立至り申間敷に非ず可寒心之甚に御座候是等の御廟算相立不申候而も乍恐御成功も水泡と相成可申候右も執政之御方之任に御座候得者決而御拙策も有御座間敷義に御



座候得共第一會計の通相立不申而も成功不申乍去是亦會計局の責に御座候得も臣和介與り知る處に非ざるか如くに御座候得共會計之道相立不申而も民政も難施深心痛仕候夫治國之道兵食信之三も去處からず而身に至而も豫而儲蓄無御座候而も急に應ずる事不能と雖も凶年飢歲以除くの外も何れの地も米穀有餘も隨分有之候故金餘有れも穀得易く大軍の糧食と雖立所に辦すへし唯之費用多し價騰貴せざるを得ん乍去騰貴の價を以道路軍輸の費に比較すれば得失相均く可有之候上古以物易物候得共中世以降貨幣以製してよ且米穀布帛以下凡百器用皆之を以賣買し以物易物の煩を省き其便言處からん故に貨幣一

石川縣金澤市役所

たい行もれてより金銀ハ飢而不可食寒而不可衣といへとも天下之を貴重する者も之か爲めに御座候古も兵食信と申候得共後世に至而も兵金穀信と謂て可也是以方今の急務も速に鑄錢司を置き多く貨幣を鑄造し是を以兵馬の失費以補い筑獨の賑給に充るに在り天下の形勢を察するに兵食信の三に於て兵已詔を諸侯に御下しに相成候得も數万の衆咄嗟可辦食信に至りても不能無遺憾何んとなれも凡官軍の供給も朝廷より御償御座候迄も先各道の領主をして供給せしむ領主亦官軍過る所の市在に命し供給せしむ速に御償無御座候得も市在疲弊し且疑惑を懷き候も必然に御座候民不信一也兵革不熄は徭役不休百姓業を廢して

奔走し殆んと命に勝へず塗炭の苦を救さんと欲して  
塗炭の苦一日一日より甚し信而後勞其民未信則以爲  
疾已困憊の極終に怨望を懷くに至る猶不與雇錢民不  
信ニあり官軍號令嚴肅秋毫不犯といへとも苟供給足  
らざる時は賤卒傭夫不知義理者或ハ民を致侵掠間敷  
に非ず天下を安するの義兵却目して貧兵とふんに至  
る民不信三ふり凡此三の民不信なるものは皆是金穀  
を給するの不速に出申候然る時は御償の遲速民心の  
向背に關する所の者甚大に御座候民不信して紙幣を  
與候とも俄に從來目に觸れざる物に御座候得々漸を  
以するに非されも勢行も難し其臣和介の速に鑄錢  
司を置き多く貨幣を鑄造いゆし候を以急務とする所

石川縣金澤市役所

以に御座候今會計官紙幣を發行し出納を漏縫するは  
萬止むを得ざるに出来る雖も是を以長策とは爲す可  
からす凡人民の信用を繫しは貨幣の純一よと急なる  
はなし然るに御一新の始の人民をして先づ疑念を紙  
幣に抱かしむ遺憾の至りに不堪奉存候速かに鑄錢司  
を置き貨幣を改造し以て天下に公行せは 王政の御  
仁惠に可奉感戴候或も元資の缺乏に苦む者も可有御  
座候得共慶長以來の古金を改造し全國鑛山を御領と  
し都鄙富有の者を諭し採掘爲致以て純一の貨幣を製  
造し各國貨幣と其平準を得るに至らば其流通高舊幕  
府の時に倍從するものあらん貨幣も天下流通の物何  
必しも諸侯の私有にのみ歸す可き人や比日政體を一

讀仕候處知府事知縣事の官あり既に鎮定する所の地  
府及縣を置きて民を治めしめ給ふも先我心を得たる  
御處置と奉感服候乍去乱雜の餘不虞の備不可忽無告  
の民不可不救兵少キれば威行れず金穀足らざるは  
恩至らす府縣の費用必多し金穀の御資給肝要に御座  
候新瀉の如き猶賊徒の巢窟となり數定未日改期すへ  
からす裁判所名有て實無し假令賊徒速逃散督府御進  
軍連府施政被為在候共賊徒の久く屯集い多し居候處  
に御座候得も其金穀を侵奪し賤民業を失ひ候に至り  
居候も必定に御座候強而租税を責候得は苛刻を免か  
れず愚昧の賤民如水益深如火益熱上を怨望仕厚き  
思召をも不信候様相成候ても成不申鯨波驛も幸に賊

石川縣金澤市役所

徒遺す所の米穀を以家を焼かれ非命に斃る、者を賑  
給い多し候得共唯目前の急を救ひ候のみにて従ふて  
與ふれば従ふて盡き盡れを則手を束るに過ぎん何れ  
百事情緒を爲し出納の目途相立候迄は 朝廷より御資  
給無御座候ては不叶義に御座候幾んど三百年大平と  
浴し干戈を見ざる賤民禍亂の後困弊已に極り離亂に  
至る毫釐も統御の通を失すれを却て舊時を慕ひ 御  
仁恤の 叡慮に御貫徹不被為在候様の場合に立至り  
可申實に朽索の六馬を御する如くに御座候凡庸難遇  
の臣和介固不能堪職事何卒天下の俊才を御撰擢御座  
候て速に御成功相立候様企望仕候誠惶誠恐頓首謹言

戊辰六月

安井和介

辦事御中

石川縣金澤市役所

越後國菟羽郡魚沼郡等已に及鎮定候得共殘黨の潜伏  
する者往々愚民に煽動し從て制すれは從て起り恩威  
並用るに非されは長く無後患事不能夫越後の國其長  
さ九十里に過き廣十七八里に下らん高山に背き巨海  
を前よし大河其中央を貫流し蒲原郡の如き沃野渺茫  
村落其間に碁布し海濱に在て東南を望め夫奥羽の諸  
山唯天際一點の翠代を爲す而已又沿海商船輻湊の地  
相連り富庶豪華天下の共に知る所にして國の大小を  
以論すれも奥羽に讓り候得共租税の歳入に至りては  
恐らくは伯仲の間に可有之と存候故に其中俠客博徒  
極て多く舊幕の吏之戕制する事能らん國中諸侯の政

石川縣金澤市役所

治の妨害を爲す事尤甚し固よ風俗淳厚の諸國と同  
視すへからん彼等現に黨を集め王師に抗衡ん不日  
首を授といへとも恐らくは舊梁醜俗速に難除之必然  
に御座候官軍柏崎長岡を戡定し民政漸多端皇化の  
普く及さるに恐る因て竊に愚考仕候に越後國を割て  
二とらし頸城菟羽三島の三郡を佳名を撰み一國とふ  
し柏崎に知縣事を置川浦小出島小千谷出雲崎に判縣  
事在勤被仰付知縣事及判縣事在勤のヶ所にて各兵  
隊を備へ不慮を戒め姦兇を追捕し良民を保護して其  
業を安する事を得せしめは人心固結再動揺の憂ふく  
皇恩を感戴可仕候又蒲原魚沼古志磐船の四郡は舊  
名を存し府と長岡に開き知府事之に居り新潟以下戡

定に従い判府事をして之に居らるゝ各府兵を擁し緩  
急相救候は、可然と奉存候帝將勲進取の論のみおら  
ず後來の守備如斯くて遺憾有之間敷と奉存候勿論蒲  
原郡は猶賊の巢穴に御座候得共預め此規模を御備置  
天下の俊才に委任し各をして其政績を揚しめ徳澤  
遠通に遍く北越の平定立所に可待と奉存候越俎の罪  
甚奉恐入候得共愚存之趣奉建言候誠惶誠恐頓首謹言

戊辰七月

安井顯比

辦事御傳達所御中

石川縣金澤市役所

東京府士族安井顯比誠惶誠懼頓首再拜伏以親王殿下維新初拜東征總督以西鄉隆盛充參謀茲整其旅沐雨梳風不辭其勞高揭旂常進入江戶戡亂反正威武維揚士民安堵東國以嚮化於是奉迎聖駕遂陞江戶爲東京天下一定無封疆之憂其大勲偉烈如斯速且盛者紀元以來所未曾有此固雖由殿下閱廊之才橫天地純一之德冠古今抑亦可不謂隆盛贊畫得其宜惟幄無遺策者哉世自隆盛及大久保利通木戶孝允三人爲維新三傑而以隆盛置第一等至今稱讚不衰隆盛當幕府末運首唱勤王之大義幕吏欲捕而殺之天下無置身地潛匿於知己家藩吏搜索亦嚴賦詩詠和歌慷慨塞匈乃與月照俱投海而死當此時知隆

石川縣金澤市役所

盛之心者唯有天際一片之月耳豈不悲乎旣而漁父援而蘇又爲藩吏所縛僅有一死遠流大島其困屯否塞百折不撓以能至助皇室中興此天生斯人社皇室者非耶而其志操之潔功績之赫殿下所親覩復何喋々哉際征韓論起與政府諸公不協乃請暇歸鄉里創立私學校以養成壯年子弟其意以謂備國家不慮之變矣然則何俄有圖不軌之意哉但隆盛與利通同出自鹿兒島藩而及其意見抱私忿於利通一念之過誤私忿與公議相軋如謂將有所訊政府亦不過欲詰責利通耳故臨其死致書於山縣參謀曰我不負山縣公也此足以觀其素志矣然壯年子弟好事者欲擁彼以動干戈旣至此誰能鎮壓之哉勢不得已爲之首領揭叛旗抗官軍是雖非隆盛之素志其罪信大逆不道於是皇

上赫怒親征之雖隆盛驍武終與壯年子弟俱伏誅於城山  
嗟吁隆盛一念之過誤遂取叛賊之名雖然就其迹推其衷  
情則或有激之者騎虎之勢不可中止也隆盛之素志每以  
皇國之強弱爲己任不肯以小康爲足矣此所世信而不疑  
因是觀之未可必謂無可愍諒者也顯比非欲敢曲庇罪人  
又非與彼痛癢相關者然竊思彼罪固大矣未足以掩其勲  
烈之顯赫何則維新初諸侯尚在依違之間如微隆盛其人  
則天下叛服未可知也矧彼以一藩士身挽回天下大勢際  
皇室中興身當東征至難之責隆盛之志天下無儔匹於是  
俊傑望風而起相競翼贊皇猷今正輝皇威於海外蒙隆治  
於國民此卽隆盛之勲烈顯赫者生則高爵位厚俸祿以重  
其威望死則崇廟祠盛祭祀以慰其靈而錄勲於青史傳名

石川縣金澤市役所

於萬世使功臣不朽此理所宜然也顯比以謂自彼伏誅已  
抵十年伏念我皇聰明睿知洞照群情憐彼積年匪躬之忠  
齋丁丑赫怒之震威特垂聖慈宥彼前罪非常之恩出自睿  
斷彼贈正二位使嗣子列華族與大久保木戶同其爵則協  
天下人心之望仰我皇深仁不可測矣雖然彼實侵叛逆之  
罪人皆恐而憚言之顯比竊思如殿下不言之誰當爲彼言  
者殿下仁慈哀而憐之奏聞宥其前罪幸得遇非常之與天  
下必感殿下之高德大義顯比今爲殿下言之者豈唯爲殿  
下言之願欲使維新之元勳全於萬世之下也殿下奏聞之  
假令不得報殿下念當時之義一言之則殿下之高德大義  
顯著於天下奚可疑哉汗冒威尊不堪恐懼之至顯比誠惶  
誠懼頓首再拜明治丁亥六月



東京府士族 安井顯比謹具

上

一品有栖川熾仁親王殿下

石川縣金澤市役所